

◆ 布施だより

長野市立篠ノ井西中学校

電話(026)292-0244

FAX(026)292-7880

発行者 教頭 高池 一昭

「まど・みちおさんの願いを感じとる会」を開きました

<校長先生のお話から> - (抜粋) -

本校の校歌を作詞して下さった、まど・みちおさんが老衰のため、2月28日にお亡くなりになりました。104歳でした。今、スクリーンに映っているのは、まどみちおさん直筆の本校の校歌です。今日は、まど・みちおさんを偲(しの)び、「まどさんの願いを感じとること」を全校の皆さんでしたいと考え、この会を開きました。

この会をとおして、まどさんが作詞して下さった、本校の校歌の歌詞の意味を改めて考えてみる、そして、本校の校歌を、皆さん自身の誇りにしてほしいと願っています。

また、本校と深い関わりのあるまどさんの願いや思いを感じ取り、そのことで、皆さんが勇気づけられる、そんな会になればと思います。

<高橋先生からの作品紹介> - (抜粋) -

まどさんは、「ぞうさん」の詩の解釈を次のように語っています。

この世の中で一番鼻の長いのがゾウで、ゾウのように鼻の長い動物は他にいません。バクがいくら長いといってもゾウの比ではありません。この地球上の動物は、みんな鼻は長くないのです。そういう中で、『お鼻が長いね』と言われたとしたら、それは『お前は変だね。』と言われたように受け取るのが普通だと思います。でも、このゾウは、いかにも嬉しそうに『そうよ、母さんも長いよ。』と答えます。長いねと言ってくれたのが嬉しくてたまらないというように、ほめられたかのように。自分も長いだけでなく、自分の一番大好きな、この世で一番尊敬しているお母さんも長いよと答えます。

このゾウがこのように答えることができたのはなぜかという、それはこのゾウが、かねがねゾウとして生かされていることを素晴らしいことだと思ひ、幸せに思ひ、有り難がっているからです。誇りに思っているからです。

本当にこの世にゾウがゾウとして生かされていることはなんと素晴らしいことでしょう。ゾウに限りません。ウサギでも蝶でも、イワシでも、スズメでも、いえ菊でも、竹でも、松の木でも、数限りない生き物がみんな、それぞれの個性を持たされて違う生き物として生かされていることは何とも素晴らしいことです。

勿論、その中の一員として人間が人間として生かされているのも本当に素晴らしいことです。まどさんは、こんな言葉も残しています。

「自分はこの世に生かされてるんだという誇り。他とは違うからこそ、うれしいんです。」

「世の中に生きるものはすべて、たったひとつの存在です。そのものが、そのものであるということ。それだけで、ありがたく、うれしく、尊いことです」



童謡「ぞうさん」の詩人が詩
Photo © 高橋千枝

篠ノ井西中生の君たちへ
君たちよ
日本人であることに
地球人であれ
地球人であるまえに
宇宙人であれ
それでこそ
まど・みちおの
日本の日本人なのだ

まど・みちお
2016.10.17

まど・みちおさんから贈られた「開校30周年を讃える詩」(H7.10.17)

多くの詩に、こうしたまどさんのメッセージが込められています。

まどさんの創った多くの詩は、私たちにに向けて

「あなたはあなたのままでいいんだよ。」 「あなたが今ここにいるだけですばらしい。」

「あなたが今ここにいること、そのことがかけがえのない尊いことです。」

こうしたメッセージを込めてくださっているような気がします。



「開校 30 周年を讃える詩」の暗唱活動に全校で取り組み、詩に込められた願いについて考えました。



会終了後に TV 局の取材を受ける生徒会正副会長 (3/14 NBS 夕方のニュースで放映)

「体罰調査に関わるアンケート結果」について

過日は、体罰に関わるアンケートへのご回答ありがとうございました。

この度のアンケートでは生徒や保護者の皆様から、教師の発する言葉や日頃の生徒に対する指導、部活指導等での不適切な指導等について、数件のご指摘をいただきました。生徒の心には届かないむしろ生徒との信頼関係を失うような、あるいは、生徒の成長にはつながらない指導に対するご指摘であると重く受け止めております。こうしたご指摘につきましても、その内容に応じて生徒や保護者の皆様のお気持ちをお聞きすることもしながら、お詫び申し上げるとともに該当職員や職員全体に指導して参りました。

私たち教師と保護者の皆様との願いは一つ「生徒のよりよい成長」にあります。私たちは皆、生徒一人一人の成長を願い、日々の教育活動にあたっておりますが、それらはすべて生徒や保護者の皆様と私たち教師との信頼関係の上でこそ成り立つものです。たとえ厳しい指導であっても信頼関係があれば、生徒の心に届きます。生徒の「先生は自分のことを大切に考えてくれている。」「先生は自分のことを認めてくれている。」等の思いこそが信頼関係の基盤であると考えています。

この度のアンケートでいただきましたご意見をしっかりと受け止め、生徒の人権や生徒との信頼関係を築くことを何よりも大切に参りたいと思います。その上で、生徒一人一人に寄り添った指導を根底におき、時には、毅然とした指導で、あるいはゆるがない壁となりながら、生徒の心に響く指導を大切に参ります。今後も篠ノ井西中学校の教育活動へのご理解とご協力を切にお願い申し上げます。

＜篠ノ井西中学校長 西澤 道生＞

★★★『体罰に関わる相談窓口』についてのお知らせ★★★

長野県教育委員会義務教育課「体罰に関わる相談窓口」宛

住所 〒380-8570 長野市南長野幅下 692-2

電話 026-235-7426 FAX 026-235-7494

E-mail taibatsu-sodan@pref.nagano.lg.jp



「中学生期のスポーツ活動指針」について

県教委では、2月13日、運動部の朝練習や部活動の延長の社会体育を原則廃止する等の内容の「中学生期のスポーツ活動指針」を決めました。このことを受けて県内の各市町村でも検討を始め、3月7日駒ヶ根市教委、3月11日飯島町教委が対応を発表し新聞報道されています。その内容は、いずれも「朝練習は、今のところ継続。今後、学校、生徒、保護者で話し合い、より良い方向を探っていきたい。」といったものでした。

長野市教委では、①部活動は、中学生にとって心身ともに健やかに成長していく上で重要な活動と考え、「中学生期のスポーツ活動指針」を尊重する。②本指針を受けて、市教委、学校、保護者、地域等が、部活動のあり方について、深く考える機会としたい。と考えており、平成26年度を準備期間として、「中学生期のスポーツ活動指針」の主旨について、学習会を実施したり、各校で「スポーツ活動運営委員会」（本校では今年度10月に実施した「部活動懇談会」にあたるもの）を設置して、部活動の体制について、意見交換を行いながらより良い方向を探っていく。そして、平成27年度から各校の実情に合わせて、指針で提案されている内容のできるのところから実施していくとしています。

そこで、本校でも部活動のより良い体制について検討を始めているところですが、来年度は、当面今までと同じ活動体制を続けながら、並行して生徒、保護者の皆様のお考えをお聞きしたり、他校の取り組み等も参考にしながら新たな体制づくりを考えて参ります。